令和6年度第1回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会(会議録)

開催日時	令和6年8月29日(木) 午後3時～午後4時40分
開催場所	四條畷市役所 本館2階 ミーティングルーム
出席者	平井委員長、上村委員、谷野委員、松川委員、藤田委員、上田委員、北田委員 (事務局)市民生活部地域振興課
欠席者	浦田委員、奥村委員、菅委員
傍聴者	なし
次第	1 委嘱状・解嘱状交付(机上) 2 委員自己紹介 3 委員長の選任について 4 四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)について 5 その他

(事務局)

委員の任期が開始して初めての会議のため、委員長が選任されるまでに間事務局で進行を行う。

1 委嘱状・解嘱状交付(机上)

2 委員自己紹介

出席委員の自己紹介及び事務局紹介

(事務局)

出席委員数及び会議が成立する旨の報告。

3 委員長選任

(事務局)

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会規則の規定等を説明。

(上村委員)

よろしければ、平井委員に引き続き委員長をお願いしたい。

(事務局)

ただいま、平井委員を推薦する声がありましたが、皆さまいかがでしょうか。

(全員)

異議なし。

(事務局)

ありがとうございます。それでは、平井委員を委員長とすることとなりました。

それでは、平井委員長、簡単にご挨拶をお願いできますでしょうか。

(平井委員長)

挨拶

(事務局)

ここからは、平井委員長に進行をお願いします。

(平井委員長)

審議会等の会議につきましては、「審議会等の会議の公開等に関する指針」に基づき、原則として公開することとされていますので、皆さまから特に異議がなければ公開するというにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

本会議の会議録についても、先ほど申し上げた指針に基づき、作成が義務付けられており、その記載内容につきましても、審議の経過が分かるように、各委員の氏名を記載の上、発言内容を明確にして記録することとなっております。本日は、会議録の作成を趣旨に審議内容を録音させていただいておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

4 四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)について

(事務局)

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会についての説明。

四條畷市産業振興ビジョン改訂の経緯及び改訂内容の説明。

四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン策定に向けたスケジュール及びアクションプラン(案)について説明。

(平井委員長)

産業振興ビジョンは「市のビジョン」なので、実際に予算を確保して執行するのは市役所かもしれないが、様々な方がこれに関わって動かしていくものであると思っています。また、各委員に普段関わられている分野があると思いますが、市民として感じていることでも構いませんので、様々な分野に対して、ご意見等いただけますでしょうか。

まず、商業について、今までとは違う新しい取り組みを行っていると思いますが、現状含めていかがですか。

(松川委員)

創業者支援に関しては、商工会含めておこなっていると思うが、6 ページに記載されている既存事業者に対しての新規事業開拓などの補助金は非常に難しいと聞いている。大阪府や国の補助金は申込期間が非常に短く、やろうと思っても募集期間が終わっていることが多い。また、情報についても、商業者の耳に入るのが遅く、もっと早く情報を取得できる仕組みづくりがあればいいと思う。

四條畷市にも補助金制度があるが、先ほど述べたように条件が難しいと聞いている。補助金採択の基準が不明瞭のため、採択された場合は採択された事業の内容を明確にし、不採択の場合はその理由を明確にする方がいいと思っている。

(平井委員)

松川委員が聞いている事業者の採択結果はいかがでしょう。

(松川委員)

不採択になったという話をよく聞く。

(平井委員長)

四條畷市補助金の募集や周知などを行っている商工会としてはいかがでしょうか。

(上村委員)

補助金については、適切な補助金助成を行えるよう申請者と面談を行いながら進めているが、実際は、申請者が諦めてしまう場合もあると聞いている。

補助金申請に関して、内容が整った書類を提出いただけない場合が多く、採択か不採択かを判断するのが非常に難しい。商工会が補助金申請や審査を担っている以上、申請内容として筋道が通っている内容でないと、採択とすることができない。市から委託されているという点も踏まえて、申請者には補助金制度の内容に則した中身を考えていただきたいと思っている。不採択されたことに対して不満を言うのではなく、申請内容を研究いただきたいというのが商工会としての考え。

(平井委員長)

諦めてしまう理由としては、手続き回数の多さ、書類の複雑さが原因ということでしょうか。

(上村委員)

そういった気持ちになるはわかるが、補助金を申請するのであれば、返却された申請書の数字等を見直し、筋道や整合性のとれた申請書にして再提出していただきたい。不採択されたので全くダメというわけではないことをご理解いただきたい。

(平井委員長)

店舗や会社を経営している方から事業継承を受け、その事業をベースにして新しく会社を興すパターンと、勤め人が独立して会社を興すパターンの2つが、通常想定できる創業だと思いますが、四條畷市での最近の傾向はいかがですか。

(上村委員)

詳細については把握していない。

(平井委員長)

商店街店舗の場合、特に先代から続いていた店舗が完全リニューアルをして別の店舗になることもあるのかと思いますが、その点はいかがですか。

(松川委員)

恐らく、四條畷に住んでいた、あるいは四條畷で親が商売していたなどゆかりのある方が、親とは違う形で商売をしている場合や、四條畷に戻ってきて商売をしている場合があると思うが、詳細については把握していない。

(平井委員長)

本人は創業だと意識して事業を行っていない場合も多いかもしれません。完全に 0 から事業を始める方もいる一方、例えば会社の別事業として立ち上げる方もおり、そういう場合は形式的には創業にあたります。

(松川委員)

最初から四條畷で仕事始めたいと思って商工会の創業セミナーなどに参加している方は、補助金制度も教えてもらえるので最初から利用できると思うが、平井委員長か

ら話があった場合のような方は、商工会の力を借りずに独自で事業を営んでいる場合がほとんどだと思う。そういう方は、銀行の融資は知っていても、市の補助金制度を知らない場合があるので、補助金を申請する方自体が少ないかもしれない。

(平井委員長)

この件について掘り下げているのは、アクションプランで達成しようとしている KPI (評価指標)が新規起業数となっていますので、直接的に表れる部分だと思っています。今回初めて委員になられた藤田委員ですが、様々なご経験をされて創業されたとお聞きしました。簡単な自己紹介もかねてご意見いただけますか。

(藤田委員)

大阪市内在住だったが、2年前に四條畷に転居した。その際、ジャパンチャレンジアワードに出場し、私が考えたビジネスプランが評価されてグランプリをいただいたこともあって、今年の4月に創業した。

元々看護師をしており、看護師の知識と介護養護教室でのメイクセラピー講師の経験を踏まえた事業となっている。四條畷に転居してから多くの方と出会い、特定創業支援や創業セミナー、中小企業診断士と相談してなわてチャレンジ支援補助金の申請などを行った。様々な方からのアドバイスを受け、四條畷市のふるさと納税として、8月に本事業の総務省の認可をいただき、登録させてもらいただいた。

ただ、いろんな方の力を借りてなんとか創業できたものの、創業後に考える販路開拓、広報などが難しい。元々四條畷に縁があるわけではないため、知り合いになった方から紹介いただいて仕事をしているが、まだ軌道に乗らないため、この先事業が継続できるのかという不安がすごくある。初めてのことなので不明な部分も多く、助言いただく機会があればありがたいと思う。

(平井委員長)

実際に創業された方のお話が聞けるのは貴重なのでありがたく聞かせていただいています。創業される過程の中で、制度があって助かったこと、逆になくて困ったことなどありますか。

(藤田委員)

「ビジネスプランコンテスト」という場があることを全然知らなかった。実際に参加すると、講師の先生方から経営学を含めて様々なことを丁寧に教えていただいた。その後、プレゼンなどで徐々に自分の考えが絞られ、最終的に提案したビジネスプランとなった。私が参加したのは3回目だったが、1回目も2回目もグランプリをとられた方は実際に起業しており、起業について専門的に学べる場所があれば、起業する人は増加すると思う。ビジネスプランコンテストが開催されていないのですごくもったいない。

(平井委員長)

藤田委員はビジネスプランコンテストをどういう形で知りましたか。

(藤田委員)

四條畷にある YouTube 教室に通っており、そこで「ちょっと勉強に行ってみたら」と言われてビジネスプランコンテストのチラシをいただいた。初めから起業しようと思っただけではなかったが、様々な方や専門家の方と話したことにより、自分の

考えが仕事につながるかもしれないと思うようになり、実際に創業できた。実際に行動に移すことで様々な知識が増えたので、学ぶ場があるということを知ること、その中での人との関りがあるということを知ってほしい。

(平井委員長)

谷野委員は、金融機関として様々な支援策を行っていると思います。特に創業支援もしくは創業後直後の事業者へ支援を行っていると思いますが、普段の金融機関の取組みや考え方はいかがですか。

(谷野委員)

弊庫としては、創業支援に力を入れている。ただ、融資などの審査は、事業実績がないため、審査が非常に正直難しいというのが金融機関の立場として難しい。融資以外にも信用保証協会や日本政策金融公庫のような公的資金融資の紹介、書類作成のアドバイス、税理士等の紹介など、事業者に適した支援が何かということを考えながら提供している。

四條畷は他市にはない制度の創設や創業者支援などに力を入れていて、とてもよいと思う。先ほど上村委員から話があったように、補助金は税金のため、事業支援によって成功していただき、最終的には納税していただきたいとこだと思う。だからこそ、商工会の審査は必要だが加減が難しいと聞いた。弊社としても、申請者が研究できるような情報提供の一環として不採択者からの聞き取りなどを行って情報提供している。創業初年度ではなく、何年か事業を行った上で申請すると採択が受けやすくなる。創業初年度は支援が受けにくいというのが現状。

(平井委員長)

創業支援の相談チラシ設置やポスターを掲げて金融機関に相談に来られますか。

(谷野委員)

弊庫の営業が新事業や創業の相談を受けることはある。また、なわてチャレンジ支援制度の場合、事業終了後にしか資金が入ってこないため、その間の資金繰りを弊庫でさせてもらっている。

(平井委員長)

私も別会議で補助金の審査を行っており、補助金交付決定をしても支払は事業後となるため、資金を調達するためには財産を持ってないといけないという矛盾した話にはなりますが、なわてチャレンジ支援制度の採択を受けた事業というのは後押しできると判断されたということだと思います。

アクションプランの目標を見たときに、普段様々な制度をご覧になっている谷野委員として、後押しすべきところ、強化すべきところは何かありますか。

(谷野委員)

一般の方が、補助金を自ら申請し、採択されることは非常に困難。なわてチャレンジ支援制度は比較的申請しやすい方だが、国の補助金制度は、専門のコンサルタントに依頼することが一般的。なわてチャレンジ支援制度においても補助金申請の審査は厳しく、文章力や表作成能力など、専門的なスキルが求められる。これらのスキルを持ってない方も多いので、補助金申請の経験が少ないと申請書類作成に苦戦する。

(平井委員長)

ビジネスプランのプレゼンのことを「ピッチ(Pitch)」と言い、授業でやったことがあります。なかなか難しい。商工会の相談窓口はそういった部分もフォローされていますか。

(上村委員)

私が直接担当しているわけではないので詳細はわからない。商工会としては採択してあげたいが、申請内容を見ると厳しいこともあり、正直ジレンマに陥っている。

(谷野委員)

商工会も頻繁にセミナーを開催していると思うが、なかなか難しい部分。

(平井委員長)

それを、突破したのが藤田委員だと思いますが、話が上がっているような公的機関に提出する書類、プレゼンなどの難しさというのは感じましたか。

(藤田委員)

中小企業診断士と相談して補助金の申請はさせてもらったが、日本政策金融公庫から受けている融資の提出書類やプレゼンは、創業セミナーでいただいた資料を見ながら自分で作成した。

(平井委員長)

説得力を持った文書作成も一つのテクニックだと思います。作成の際にコーチみたいな人に見てもらおうなど人の手や目が入ると変わるのかもしれませんが。先ほどの話に戻りますが、事業経験や財務諸表がある方が新事業をする場合は、ハードルが低いとのことでしたが、その部分はいかがですか。

(谷野委員)

新事業を始めて収益が少なかったとしても、本業での利益を変換するという手法をとられる場合は融資を受けやすい。

(平井委員長)

ゼロからの創業だけでなく、過去の蓄積を生かして創業をする事業も当然含めるとのことですね。

普段法人として仕事されている上田委員は、法人を運営するうえで、当然補助金申請や金融機関とのやり取りがあると思います。農業の立場からご意見ありますか。

(上田委員)

なわてチャレンジ支援補助金は、商工会に相談し、中小企業診断士を紹介いただいて、書類作成を依頼し、無事採択いただいた。中小企業診断士は農業分野をご存じじゃないこともあって書類作成に苦労しており、幾度もやり取りを重ねた。農業者の高齢化、世代交代を見据えて、今回の補助金でリモコン草刈り機を購入した。若い方は操作が上手で機械に興味を持ってくれるので、次世代につなぐ機会になるのではないかと考えている。また、法人で栽培している小麦は7月号広報で記事にいただいたが、昨年度に比べて収穫量が少なく、拡販したいが厳しい状況。

(平井委員長)

補助金制度などの情報は取得しやすいですか。

(上田委員)

商工会の会員から情報を仕入れている。

(平井委員長)

市の会議に出席することにより制度などの情報を取得できますが、普通に過ごしていると難しく、政策広報も必要だと思っています。アクションプランの農業分野について、ご意見ありますか。

(上田委員)

現時点では場整備開始前は耕作放棄地もあることから、ほ場整備後の事業内容だと思っている。ほ場整備で次世代につなげる農地を整備し、農業の効率化を行えるように検討することが今後重要だと思う。

(平井委員長)

アクションプランの農業分野のKPIを「農業者数の増加」と設定していますが、農業者の人材確保に関してどういう考えを持っていますか。

(上田委員)

従来通りだと若い方が参加しないため、農業の機械化が必要だと思う。ただ、ドローンは維持費が年間30万前後するので高く、先進地に視察に行ったこともあるが、大変だと聞いている。

(平井委員長)

アクションプランに記載して実行することにより、若い人の関心を高めることができたらいいですね。

(上田委員)

若い人はテレビゲームをやるような感覚でやっていた。それを踏まえると、行けない堤防など短時間で草刈りできるので、こういう手法も検討する必要があると思っている。

(平井委員長)

地産地消を大切にしている学生が意外と多いので、そういう人への周知も重要だと思います。下田原の小麦も広く販売できたらそういう人に届くかもしれませんね。

(上田委員)

広報誌、返礼品、市の給食など色々検討して動いているが、現在小麦がないので、販路拡大も難しい。

(平井委員長)

四條畷の小麦を浸透させるため方法について、消費者の立場からどうお考えですか。

(北田委員)

生産者とは反対の立場なので意見は難しいが、情報収集が広報誌や広報板しかない。広報板が設置してあるところを通ると必ず見るので、一番大事だと思う。

(平井委員長)

広報戦略にシティプロモーションを掲げているので検討されていると思うが、制度、補助、商店街の取組など、今あるものでどう情報発信を行うかということが大事になりますね。商業分野では取組発信をされていると思いますがいかがですか。

(松川委員)

発信は行っているが、簡単にできる反面、その効果がどこまで発揮できているのかを確認するのが難しい。本来は、発信を見てもらい、商店街に来て買い物へつながるの

が理想ではあるが、それを実現するためにはイベントなどをして仕掛けづくりをする必要がある。

以前は商店街や商連に対して市から補助金をもらえたので事業をやっていたが、それもなくなり市民サービスを提供するのも難しい。商店街と市民が互いに成長できるような形が理想。四條畷は他市と違ってインバウンドの効果もあまりなく、スマホが使いこなせない高齢者の店主も多いため、海外から客が本当に来られたら対応が難しい状況。そのためお客も地元の高齢の方が多く、そういう方に対しての情報発信が難しい。

以前シャルでも場所を提供する代わりにスマホセミナーを携帯会社と開いたことがあった。対象者や場合によって、SNSなどのネットにするか、チラシなどのアナログにするかを使い分ける必要がある。それに対しての費用を補助金でまかなえることが一番ベストだと思う。

(平井委員長)

藤田委員は商業の在り方検討会からの選出ですが、「商業の在り方検討会」では何を検討されているのか、どういう意識で検討会を進めているのか教えていただけますか。

(松川委員)

私も検討会に参加しているため、私から説明させていただく。メンバーにはアワード出身で前向きに自分のビジョンをもって参加している方が多い。今は、情報集めをしつつ、自分たちのできる範囲で四條畷の商業のありかたを考えているところ。今後、産業振興ビジョンにも直結する形になるため、検討会から2名参加している状況。

(平井委員長)

本協議会を最初に開催した頃と違って、自分たちで問題提起し、課題解決するために皆さんで検討されているというのはいいあり方だと思います。

私の地元でプレミアム商品券事業をやっていますが「使用期限が2日だけど100万円使われていない」という放送が流れましていました。地域によって実情が違いますが、支援があったとしてもうまく活用できていないと、地域にとって助けにならないと感じました。話を戻しますが、アクションプランの中で今回新しく「オープンファクトリー」を入れております。工場を一般市民に開放し、見学を通して工業分野の人材確保、人材育成につなげるという目的で行っていると聞いていますが、上村委員いかがでしょうか。

(上村委員)

四條畷は東大阪と違って工場が多くなく、オープンファクトリーを開催するとしても難しい部分があると思っている。ただ、私のところでいうと各小学校から見学の話があり、定期的に受け入れていることもあるため、それは継続してやっていけばいいと思っている。

また、先ほどから話にも出ているように中小企業や小規模事業者はコロナもあって厳しい状況。商工会としては、大阪府へ商工会議所連合会と共同で経営支援の補助金に対する要望書を提出しに行った。正直コロナだけではなく、近年は賃金上昇など厳しい状況で、1、2年ですぐに情勢が変わってしまう。状況を見ながら臨機応変に対応

していかないといけないと思う。

(平井委員長)

経営環境に応じて柔軟に対応する姿勢が大切ということですね。問題に対応できる体制づくりなど人に関わる部分が一番予算や手間がかかって難しいところですが、常にある程度予算をつけて対応しなければならないと思います。そのあたりをアクションプランにも反映していけたらと思っていますが、提案いただいている案についてはいかがですか。

(谷野委員)

創業支援以外に、人材確保を専門にしている業者とのマッチング、高齢事業者に対する事業継承・廃業の相談なども行っている。実績はそこまで多くないが、事業者をチームで支援する体制は整えている。

(平井委員長)

最初に藤田委員もお話しいただきましたが、創業した後の継続が大変で、事業を継続できるように支援する仕組みが重要だと感じています。昔ほど景況が悪くはありませんが、常に対応できるような体制を構築していくことをアクションプランに盛り込む必要があります。また、アクションプラン作成後の検証、今回の産業振興ビジョンの終期が終わった後の次のビジョン作成など、事業がつながるように取り組む必要があります。

また、様々な段階で支援がありますが、事業の継続性、情報発信など難しいですが大切なことは多くあります。アクションプランを実行し続けるためには、様々なネットワークを使い、活用していくことが大事だと本日の会議で感じました。委員の皆さまも様々な立場から発言をいただきましたが、四條畷のことをすべて把握しているわけではないと思いますので、共有しながら今後も進めていきたいと思っています。

次回は、本日の会議を踏まえた後、再度同様の形で本協議会に提示いただき、皆さまからのご意見をいただく形となります。確認いただいているアクションプランの内容について、意味合いや表現方法について意見があれば、適宜事務局へ報告をお願いします。

なお、今回の議事録について、事務局が作成したものを一度ご確認いただいた後、最終的に私に一任ということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(全員)

異議なし。

5 その他

(事務局)

令和6年度四條畷市産業振興ビジョン推進協議会スケジュールの説明。

次回会議日程調整

(平井委員長)

それでは、本日の会議はこれをもって終了とします。

以上